

私たちの身近で飼われている犬や猫をみてみましょう。あなたはその犬や猫から本来の野生的な能力（獲物をとったり警戒したりする力）をみることができるでしょうか。たいていの場合、人に飼われたことにより本来の力を鈍らせ使えなくなっています。では私たち人間はどうでしょうか。近年、花粉症や食物アレルギーを持つ人が増えてきています。これは身体の防御能力が正しく働かないために起こるものですが、本来私たち人間は神様から自分を制するものとして創造されました。先に述べたことは症状の話ですが、同じように本来制御できるはずのことが制御できない、本来気付かなければいけないことが気付けない、そんなことが私たちの日常で起こってはいないでしょうか。本来なら正しいところに自分を置くことのできる人間が、罪に対して鈍感になったり、したことを覚えていなかったりしていないでしょうか。もしそうならば、それは大変恐いことです。あなたの心は鈍くなっていませんか。

今日の聖書箇所、ルカ24：13-38には、エマオの途上にある2人の弟子と復活したイエス様との出来事が書かれています。この2人の弟子はイエス様に会っても初めはイエス様と気付くことができませんでした。彼らは、死んで復活すると言われたイエス様の言葉を忘れ、まさか目の前にいる方がイエス様だとは信じられなかったのです。そんな彼らをイエス様は「心の鈍い人たち」と言われています。彼らは心を鈍らせ、本来見るべきものを見ることができなくなっていたのです。つまり、彼らの心は「EXILE」になっていたのです。

「EXILE」とは、離散の民、放浪した人たちという意味ですが、語源はバビロン捕囚からきています。イスラエルの民がバビロン捕囚に遭ったのはなぜでしょう。それは民が預言者から語られる神の言葉を自分たちの欲のために聞き入れず、従わなかったためです。イザヤ6：8-13にも書かれているとおり、イスラエルの民は捕囚されないと神様の言葉を悟ることができなくなっていたのです。こうしてイスラエルの民は本来いるべき所でない所に売り渡され、離散の民となってしまったのです。

しかしこの民と同じように私たちも、本来すべきことを聞いていても神様に心を向けることができず、何度も失敗したり裏切ったりすることがあります。今、神様は私たちに語ってくださっています。イスラエルの民のように捕囚に遭わないと分からないとなる前に、神様の言葉に聞き従いましょう。なぜなら神様がせよということ、私たちにとって簡単なことであり、必ずできることだからです。そして神様は私たちのなかに、朝こうしようと決めていても夕方には忘れてしまう弱さ、続けようと頑張っても疲れてしまう弱さがあることもご存知で、そんな私たちに完璧を求めることはされません。ただ、次のことをするように言われています。それは神様との約束を守ること、いけないことをしたら神様の前に素直にごめんなさいということ、疲れたら素直に疲れたということ・・・神様の前にありのままの姿でいなさいと言われています。あなたはそれができていますか。それができていればあなたはあなた自身を守ることができます。そのために神様は「わたしから離れるな」と言われています。あなたは誰のために生きていますか。自分勝手に生きていませんか。自分のすべきことが分かっていますか。神様から離れると、先述の弟子たちのようになります。彼らはイエス様が生きていたときはイエス様を「生ける神の御子キリスト」と分かっていたのに、イエス様が十字架にかかり死んで葬られた後は気落ちし、イエス様が神の御子であることを忘れ「力ある預言者」としてしまいます。ですから復活されたイエス様に会っても弟子たちは信じることができず何度も疑ってしまったのです。そのような弟子の姿はまさしく捕囚の民と同じではないでしょうか。彼らは本来の姿を見失ってどう歩めばよいか分からなくなっていたのです。彼らはみな心が鈍くなっていたのです。しかしそれは私たちにもいえることです。あなたが人と接するとき、本来なら相手のことを感じられるはずなのに感じられなくなったり、お互い態度だけでは伝わらず言葉でしか分かり合えなくなっていたりしていないでしょうか。人と向き合い共に生きるのなら、わたしたちは人の心を感じていかなければいけません。私たちが人を使おうとすればその人の心は離れていきます。しかしその人に愛をもって応えよう、愛を流そうとすれば相手の心は必ず戻ってきます。

ですから、私たちは次のことをしなければいけません。**1. 平安を得よ(シャローム)** イスラエルの民が失敗したのはいつも平安を失っていたからです。神様の平安は渴かない平安、心の重荷が取り除かれる平安です。神様に頼るのは問題があるときだけではないけません。私たちはいつもキリストの十字架を感じ、重荷をおろしている必要があります。心が騒ぐ中で人と接しても、お互いに信じる心は生まれません。そのようなときイエス様は『なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。(ルカ24：38)』と語られます。神様が私たちをみるように、私たちも相手を見なければいけません。そのためには主の平安が必要です。主の平安を求めていきましょう。**2. 現実に御言葉を！！** 平安を得た後、あなたは起きたことを忘れていませんか？そこで終わりではなく、そのことを神様が益とされるまで忘れず待たなければいけません。そうすることが悔いて改める、二度と同じことを繰り返さないこととなります。誰も失敗はします。しかしそれを繰り返さないことが大切です。全てに原因と結果があるのですから、自分を見つめていきましょう。目の前にある現実をみてそこから何が語られているかを感じなければいけません。そこで失敗、罪にさいなまれる必要はありません。ダビデのようにいつも主を前に置いて物事を行ないましょう。つまり、あなたの価値観、人間的な考えで物事を考えず、イエス様の目でみていくのです。現実をしっかり見て御言葉を結びつけ、神様が何といわれているかを知りましょう。そしてそのことが解決したなら、もう自分の問題・重荷とせず、原因と結果だけを見るようにしていきましょう。**3. 繰り返さない！！** 大事なことは「神様から離れないこと」です。それができれば失敗は自然と繰り返さなくなります。私たちが失敗してしまうのは、私たちの心が本来あるべきところから放浪してしまうからです。イスラエルの民は捕囚にあって「二度と神様から離れてはいけない」ということを知りました。そしてその子孫からイエス様が生まれ、そして今、あなたがここにいるのです。

この3つのことを先駆けとなって行った人がおり、その人たちがいたからこそ、あなたのところにも神様の福音が届いたのです。あなたの心を受け入れてくれる方がいることを忘れずに歩みましょう。神様を自分の都合で用いず、自分の心を偽らず、神様の前にいつも元気に喜んでいきましょう。そして、離散の民にならず、良いときも悪いときもどんなときも神様に心を向け歩んでいきましょう。(要約者：金光 瞳)